

【ポスター発表】

性の多様性に関するソーシャルワーク教育 — 「隠れたカリキュラム」の視点を踏まえて—

○ 富山福祉短期大学 松尾 祐子 (8369)

荒木 晴美 (富山福祉短期大学・9585)

キーワード：性の多様性、ソーシャルワーク教育、隠れたカリキュラム

1. 研究目的

性の多様性に関する教育は、養護教諭を中心とした義務教育、大学の社会学のジェンダー論、社会人を対象とした人権教育など、様々な分野で取り組みが始まっている。高校の教科書(家庭科)にはLGBTと記載されているものが登場し、法務省をはじめ人権団体、当事者団体による視聴覚教材の開発も進んでいる。ソーシャルワーク教育においてもテキストや事例集の記載が増え、2019年の社会福祉士の国家試験では性的違和に関する問題が出題された。本研究では、様々な分野の取り組みを参考にしながら、性の多様性をソーシャルワーク教育へどのように取り入れることができるか考察する。

2. 研究の視点および方法

文献や論文を基に、様々な分野で行われている性の多様性に関する教育の方法と現状を整理し、それらを参考にソーシャルワーク教育への取り入れ方を考察した。またソーシャルワーク教育へ、先駆的に性の多様性を取り入れているカナダの例を参考にした。

3. 倫理的配慮

本学会の研究倫理指針に基づき報告を行う。

4. 研究結果

1) 様々な分野の取り組み状況

大学の教育課程で「隠れたカリキュラム」^{注)}や「人権教育」を考える位置づけで、性の多様性を授業に取り入れている渡辺(2010)は、「ジェンダーバイアスや異性愛中心主義、性のグラデーションなどの事前学習により自分自身の見直すことの必要性」「複数の当事者の話を聞く効果として、異性愛者と同性愛者という枠を超えてみんなそれぞれ違くと捉えられること」などを指摘している。

また、Ri:Bit(2014)では当事者の視点での授業への取り入れ方や具体的な授業内容を紹介し、教職員向けのパンフレットも作成している。2017年には小学校向け中学校向けのDVD教材(対象の子どもに合わせて当事者が語りかける内容)を作成している。

2) ソーシャルワーク教育の分野

三島(2017)はソーシャルワーク教育の中で、多様性の理解を醸成するためには、テキストやシラバスを工夫するだけでは不十分であり、「隠れたカリキュラム」の存在を念頭において教育環境を整える必要性を強調している。

寺田(2019)は養護教諭を対象とした調査を通して、学校教育現場には子どもを抑圧する構造が存在し、これらが子どものパワーを減退させているとし、エンパワメントの視点を用いて、当事者が抱える課題にマイクロ、メゾ、マクロのレベルで学校ソーシャルワークを展開する必要性を述べている。

カナダでは多民族多言語の社会の中で、ソーシャルワーク教育においても多様性の尊重が重視され、Seven(2018)のテキストには1つの章として性の多様性が記載されている。その章には「性的指向や性自認の捉え方が当事者との関係に影響を与えること」「特権(異性愛など)への自己覚知」「社会の抑圧の構造」「権利を獲得した歴史的な流れ」「支援方法」など細かな記載がある。

5. 考察

先行研究で指摘されているように、性の多様性を授業に取り入れる際には「隠れたカリキュラム」の影響を意識することが重要といえる。学校における男女二分化を前提とした役割分担や呼称、異性愛を前提とする活動などは無意識に性的マイノリティの存在を否定してしまう。学校がどのように当事者へ配慮しているかということも「隠れたカリキュラム」となり、多様性の尊重の教育の一環としてその価値が学生に伝わるといえる。そしてこれらは、カナダで自分自身の性の捉え方を意識させる教育方法と共通している。

具体的な導入方法としては「講義科目の社会問題の1つ」「演習科目の事例」「当事者参加型授業」など様々な方法が考えられる。性の多様性を特別なこととして教えるのではなく、「倫理綱領」「グローバル定義」「社会正義」「多様性の尊重」「自己覚知」「インクルージョン」「エンパワメントアプローチ」「マイノリティの人権」などの授業との関連で教える方法もある。阿部(1997)が「マイノリティが尊重される社会が福祉社会」と述べているように、マジョリティのニーズが反映されやすい社会の中で、抑圧されやすいマイノリティの生活課題を理解し、人権を守るためのソーシャルワーク教育が求められるといえる。

参考文献

- ・加藤慶・渡辺大輔(2010)『セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援増強版』開成出版
- ・Ri:Bit(2014)『LGBTってなんだろう?』合同出版
- ・三島亜紀子(2017)『社会福祉学は“社会”をどう捉えてきたのか』勁草書房
- ・寺田千栄子(2019)「LGBTQの子どもたちへのエンパワメント視点に基づく学校ソーシャルワーク実践の必要性」『社会福祉学』2019.2 Vol. 59-4(No128)
- ・Seven Hick(2018)『Social Work in Canada: An introduction』
- ・阿部志郎(1997)『福祉の哲学』誠信書房

注) 文部科学省(2008)「人権教育の指導方法のあり方について第三次とりまとめ」では「教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生生活を営む中で、児童生徒らが学びとっていく全ての事柄を指すものであり、学校や学級の『隠れたカリキュラム』を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである」と定義している。